

研究成果

本共同研究は、アジアの先住民族とエネルギー関連の迷惑施設の事例を取り上げ、その問題点の調査分析と提言を行うことを目的としている。

1年目の2019年度は台湾調査を実施した。タオ族（台湾の先住民族のひとつ）が暮らす離島、蘭嶼（ランユ）島に設置された放射性廃棄物貯蔵施設の問題を取り上げ、現地においてフィールド調査を実施するとともに、台湾原住民族図書資料センター（台北市）などで関係資料を渉猟した。今回は台風の影響で、台湾本島（台東）と蘭嶼島を往復する飛行機／船が相次いで欠航し、当初の予定を変更せざるを得なかったものの、貯蔵施設の見学、廃棄物撤去運動を担ってきたタオ族の主要人物聴取、蘭嶼島の歴史・文化を展示する博物館の見学など、本調査の狙いはほぼ達成することができた。また、本調査に同行したベトナム先住チャム族・インラサラ氏の知見と発見を重ね合わせることで、先住民族の地に迷惑施設が押し付けられる「犠牲のシステム」の構造を、より具体的に把握することができた。

以下は、研究代表者による一般向けの報告文である。インラサラ氏の旅費を支援いただいた市民団体、ノーニュークスアジアフォーラム・ジャパンの会報に掲載された。

ポンソ・ノ・タオ

吉井美知子

意味不明の題名を付けたけれど、これ、タオ語で「人の住む島」という意味だそう。台湾の南東にぽつんと浮かぶ小島で、中国語名は「蘭嶼（ランユ）島」。会議に先駆けて、訪問してきた。メンバーはベトナムのもと原発予定地出身の先住民族作家インラサラ氏と、案内役のフリージャーナリスト鈴木真奈美氏、そして筆者の3人。

島には先住民族タオ人が住む。そこへ低濃度核廃棄物貯蔵施設が作られた。台湾本島の原発から出た廃棄物が貯めてある。原発と核廃棄物、それぞれ反対運動を担った先住民族同士で交流を、と考えたのである。

折からの台風で航空便が欠航、大揺れの船で2時間半、やっとたどり着いた。1泊の予定が、帰りには船も欠航、取り残された。荒天で食堂も閉まり、宿の家族に料理してもらってしのいだ。

車もあまり通らないのんびりした島、貯蔵施設はそこだけ異様だった。放射能が漏れ続けているらしく、改修工事が進む。話を聞いたタオ族代表の女性は、甲状腺がん、乳がん、子宮がんを発症して闘病中だった。島の女性の8割が、甲状腺に異常が見られるという。

インラサラ氏はこの島で何を感じたか。船酔いで大変苦労したが、「行ってよかった」。聴き取りでは、中国語を鈴木氏が和訳、それを筆者が越語訳するという二重通訳になった。それでも話ははずんだ。そのうち発表されるに違いない、インラサラ氏の訪問記に期待している。はあ、もちろん和訳はやらせてもらいます（吉井2019：19-20）。

また 2019 年 11 月には大阪にて、同フォーラム主催の講演会で成果発表の機会を得た。
このときのチラシと配布資料を次ページに添付する。

このように今回の台湾調査のうちで本共同研究の資金より支出したのは、主として共同研究員の鈴木真奈美氏の旅費・交通費等である。研究代表者の旅費は主に科研費により、またインラサラ氏の同行は市民団体ノーニュークス・アジア・フォーラム台湾および同フォーラム・ジャパンの支援により実現した。これらのどの支援が欠けても、この貴重な機会は得られなかった。この場をお借りしてお礼を申し上げる。

なお、同じく科研費で調査に参加予定であった渡邊ゆきこ研究員は、残念ながら荒天のために、対岸の台東まで来ていながら果たせなかった。島で面会を希望していたが同じく天候の都合等で会えなかったタオ人作家、シャマン・ラボガン氏への聴き取りを含め、今後の課題としたい。

引用・参考文献

- インラサラ (2015)「チャム人と原発建設計画」伊藤正子・吉井美知子編『原発輸出の欺瞞ー 日本とベトナム、「友好」関係の舞台裏ー』明石書店, pp.74-84
- 中生勝美 (2011)「蘭嶼島 津波の島に蓄積される核廃棄物 (特集 原子力復興という危険な夢)」『世界』1 月号、第 812 号、岩波書店、pp.194-202
- 中生勝美 (2013)「核廃棄物貯蔵場・蘭嶼島のホットスポット : 原子力と差別の構図」『世界』6 月号、第 844 号、岩波書店、pp.238-246 上村英明 (1995)「『国際先住民年』とアジア・太平洋の先住民族」解放出版社編『アジアの先住民族』、解放出版社、pp.222-238
- ラボガン、シャマンほか (2003)「故郷に生きる」魚住悦子訳、草風館
- ラボガン、シャマン (2014)「空の目」下村作次郎訳、草風館
- ラボガン、シャマン (2017)「大海に生きる夢」下村作次郎訳、草風館
- 鈴木真奈美 (2017)「原子力発電の後始末に着手した台湾 : 廃炉・核廃棄物処分・エネルギー転換」『世界』8 月号、第 898 号、岩波書店、pp.96-102
- 上村英明 (2001)『先住民族の「近代史」』平凡社選書
- 上村英明 (2008)「『先住民族の権利に関する国連宣言』獲得への長い道のり」『PRIME』Vol.27, 明治学院大学国際平和研究所、pp.53-68
- 吉井美知子 (2016)「日本の原発輸出とベトナムの先住民族への人権侵害」東アジア共同体研究所紀要、第 2 号、那覇、pp.75-87
- Yoshii, Michiko (2016) *Indigenous Cham People and the Nuclear Power Plant Project in Vietnam*, Cahier d'études vietnamiennes, No.24, Université Paris Diderot Paris 7, pp.83-109
- 吉井美知子 (2018)「先住民族と迷惑施設に関する研究ーベトナム・ニントゥアン省周辺のチャム人を事例にー」沖縄大学地域研究所紀要『地域研究』第 22 号、pp.111-130
- 吉井美知子 (2019)「NNAF in 台湾に参加して」『ノーニュークスアジアフォーラム通信 No.160、10 月 20 日号、pp.19-20